ふ え き り ゅ う こ う 「不易流行」 –教育長だより– No.2

「生きる力は、“仲間”と“学力”・“遊び”」…。

いよいよ本格的な夏が到来。とはいうものの今年も5月ごろから夏日(25度以上)の連続で、近畿地方は例年よりも1週間ほどは梅雨入りが遅かったようですが、最近の長雨(ところにより豪雨)と蒸し暑い日もあり、体調を崩されている方も多いのではないのでしょうか。こまめに水分補給、そして適切に冷房を使うなど暑さ対策を万全にして、“暑い夏”を乗り切ってくださいね。

ところで、私の経験を思い起こしますと、この「生きる力」に、私自身の認識を問われるエピソードがあります。それは、中学校社会科の教員として2年目のころ、ある日の昼休みに、数人の生徒が職員室に入ってくるなり、「先生、生きる力がありません。」また、ある生徒は、「先生、生きる力をなくしました。」と下を向いて話してくれたのです。

私は、驚いて、生徒たちを別室に呼んで、その理由を尋ねました。「どうしたんや。友だちとけんかでもしたんか。」「何か、困っていることがあるの。」でも、下を向いてばかりで何も話してくれません。日ごろ、生徒とは良好な関係を築いていると思っていた私は、かなりショックでした。私は、よほど思い詰めた生徒の様子を見て、同僚の先生に相談しようかと悩みました。

ほどなく、5時間目が始まります。次の時間は道徳です。…と思った瞬間、私は「ハッ。」と気がつきました。

実は、当時、道徳の時間に副教材を使っていましたが、そのタイトルが、「生きる力」でした。もう、おわかりだと思います。「生きる力がありません。」は、「持ってきていません。」「生きる力をなくしました。」は、「探したのですが、見つかりませんでした。」とのこと。ほんの一言、「道徳の本を忘れました。」でよかったのに…。

私は「ホッ。」と、胸を撫でおろしながら、この「生きる力」の意味を生徒たちに教わりました。と同時に、「生きる力」のことばの重さを実感しました。今、「生きる力」は、「仲間と学力・遊び」だと思っています。今の本市の子どもたちには、「生きる力」の前に「たくましく」をつけるのがピタッとくるのではないかと思います。

もう40歳を超えた教え子たちは、今、私の「生きる力」になっています。